

S3 1 PN=JP 7258005

3/7/1

DIALOG(R)File 351:DERWENT WPI

(c)1998 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

010478603

WPI Acc No: 95-379924/199549

Agricultural bactericide/fungicide used for rice - contains peracetic acid as active ingredient

Patent Assignee: OTSUKA KAGAKU YAKUHHN KK (SAKB)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Main IPC	Week
JP 7258005	A	19951009	JP 9445444	A	19940316	A01N-037/02	199549 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9445444 A 19940316

Patent Details:

Patent	Kind	Lan	Pg	Filing Notes	Application	Patent
JP 7258005	A		4			

Abstract (Basic): JP 7258005 A

An agricultural, horticultural bactericide useful for diseases of rice, which contains peracetic acid as active ingredient. Also claimed is an agricultural, horticultural bactericide useful for bacterial wilt of tomato, which contains peracetic acid as active ingredient.

Also claimed is an agricultural, horticultural bactericide useful for bacterial soft rot of cabbage and Chinese cabbage, which contains peracetic acid as active ingredient.

ADVANTAGE - The bactericide is useful for both bacteria and filamentous fungi, and shows high bactericidal activity even to bacteria resistant to drugs. The timing of treatment can be freely chosen. Time required for the treatment can be reduced.

USE - The disease is of young rice plants i.e. the bactericide is partic. useful for fungal diseases of rice including *Gibberella fujikuroi*, *Cochliobolus miyabeanus*, *Pyricularia oryzae*, and bacterial diseases of rice including *Pseudomonas syringae* pv. *panici*, and *Pseudomonas glumae*.

EXAMPLE - Peracetic acid was dissolved in water to provide a bactericide of contg. 1% of peracetic acid. The agent was diluted with water and used for treating unhulled rice infected with *Gibberella fujikuroi* which showed resistance to benzimidazole type chemical. (The effective component to the peracetic acid was 1000 ppm, and the treatment time was 60 mins.). Result: the agent showed excellent disease controlling activity.

Dwg.0/0

Derwent Class: C03

International Patent Class (Main): A01N-037/02

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-258005

(43) 公開日 平成7年(1995)10月9日

(51) Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 0 1 N 37/02

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-45444

(22) 出願日 平成6年(1994)3月16日

(71) 出願人 000206901

大塚化学株式会社

大阪府大阪市中央区大手通3丁目2番27号

(72) 発明者 山口 国夫

徳島県鳴門市里浦町里浦字花面615番地

大塚化学株式会社鳴門研究所内

(74) 代理人 弁理士 三枝 英二 (外4名)

(54) 【発明の名称】 農園芸用殺菌剤

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、細菌と糸状菌の両者に有効であり、薬剤耐性細菌に対しても優れた殺菌効果を有し、処理時期を自由に設定することができ、灌注処理でも十分な殺菌効果を発揮し得る農園芸用殺菌剤を提供することを目的とする。

【構成】 本発明の農園芸用殺菌剤は、過酢酸を有効成分とするイネ病害用殺菌剤、トマト青枯病用殺菌剤及び白菜、キャベツの軟腐病用殺菌剤である。

も、イネ苗立枯細菌病、イネ初枯細菌病、イネ褐条病、イネばか苗病、イネごま葉枯病、イネいもち病等に有効であり、その中でも、イネ苗立枯細菌病、イネ初枯細菌病、イネ褐条病等に特に有効である。更に本発明殺菌剤は、トマトの青枯病及び白菜、キャベツの軟腐病に特に有効である。

【0013】

【発明の効果】本発明殺菌剤は、イネの育苗期間中に発生する病害並びにトマト、白菜及びキャベツの特定の病害に対して特に優れた防除効果を有し、これらの病害の原因となる細菌と糸状菌の両方に対して有効であり、薬剤耐性細菌に対しても優れた殺菌効果を有し、浸種前処理以外の処理も行い得るので処理時期を自由に設定することができ、更に灌注処理でも十分な殺菌効果を発揮し得る。また本発明の殺菌剤は、従来の市販殺菌剤に比べ、処理時間が短くても十分な殺菌効果を発揮するという特性をも有している。

【0014】

【実施例】以下に実施例を挙げ、本発明を一層明瞭なも*

$$\text{防除値} = \frac{\text{無処理区の発病苗数} - \text{処理区の発病苗数}}{\text{無処理区の発病苗数}} \times 100$$

【0017】

※ ※【表1】

殺菌剤	有効成分濃度 (ppm)	処理時期	処理時間	防除値	被害
本発明殺菌剤	1000	浸種前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	200	催芽前	24時間	100	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	200	播種後灌注 5ℓ/m ²		65	なし
コサイドボルドー	200	浸種前	24時間	70	なし
スターナ	1000	浸種前	24時間	64	なし
無処理				0	なし

【0018】実施例2

イネ初枯細菌病防除効果試験

イネ初枯細菌に汚染されたイネ初を用いる以外は、実施★

★例1と同様にして試験を行った。結果を表2に示す。

【0019】

【表2】

殺菌剤	有効成分濃度 (ppm)	処理時期	処理時間	防除値	被害
本発明殺菌剤	1000	浸種前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	200	催芽前	24時間	100	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽後	60分	100	なし
本発明殺菌剤	200	播種後灌注 5ℓ/m ²		95	なし

【0020】実施例3

ベンズイミダゾール系薬剤に耐性を示すイネばか苗病防除効果試験

ベンズイミダゾール系薬剤に耐性を示すイネばか苗病に汚染されたイネ初を使用し、且つ播種4週間後に発病苗☆50

☆数を調査する以外は、実施例1と同様にして試験を行った。また比較のため、ベノミルとチウラムを有効成分とするベンレートT（商品名）を用い、同様の試験を行った。結果を表3に示す。

【0021】

*のとする。

【0015】実施例1

イネ苗立枯細菌病防除効果試験

過酢酸を水に溶解させ、過酢酸濃度1%の本発明殺菌剤を調製した。該殺菌剤を水で希釈した溶液20mlを100ml容ビーカーに入れ、これにイネ苗立枯細菌に汚染されたイネ初10gを浸漬処理し、防除効果を調べた。イネ初は、浸種前、催芽前及び催芽後のものを用いた。浸種は20℃で3日間、催芽は32℃で1日間行った。発芽した初を12×12cmのプラスチックケースに播種し、32℃で2日間保った後、温室内で管理した。播種3週間後に発病苗数を調査し、下式に従い防除値を算出した。結果を表1に示す。また比較のため、水酸化第二銅を有効成分とするコサイドボルドー（商品名、銅水和剤）及びスターナ（商品名、オキシソリック酸水和剤）を用いた。結果を表1に併記する。

【0016】

【数1】

【表3】

殺菌剤	有効成分濃度 (ppm)	処理時期	処理時間	防除価	被害
本発明殺菌剤	1000	浸種前	60分	98	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽前	60分	100	なし
本発明殺菌剤	200	催芽前	24時間	96	なし
本発明殺菌剤	1000	催芽後	60分	94	なし
ベンレートT	1000	浸種前	24時間	74	なし
無処理	—	—	—	0	なし

【0022】実施例4

トマト青枯病防除効果

トマト青枯病菌に汚染された土を直径9cmのポットに詰め、播種23日後のトマト幼苗(本葉4葉機)の根の一部を鋏で切り取って移植し、直ちに、実施例1と同様の殺菌剤を水で希釈した溶液を灌注した。移植13日後*

10*に発病した株数を調査し、防除価を算出した。結果を表4に示す。また比較のため、スターナ(商品名、オキシリック酸水和剤)を用い、同様の試験を行った。結果を表4に示す。

【0023】

【表4】

殺菌剤	有効成分濃度 (ppm)	処理量 (l/m^2)	防除価	被害
本発明殺菌剤	100	4	80	なし
スターナ	200	4	0	なし
無処理	—	—	0	なし

【0024】表1～表4から、本発明の殺菌剤が、浸漬処理及び灌注処理のいずれの場合においても、イネ及び※

※トマトの特定の病害に対して優れた防除効果を有することが判る。